

施策の柱	歴史・文化・スポーツに親しむまちづくり
施策名	文化財の保存・整備と活用

## 1 施策の概要

事業名	所管課	対象 (誰を、何を)	意図 (どういう状態にする)
(1) 事前調査・発掘調査	文化財課	地権者	埋蔵文化財を記録及び保存する。
(2) 遺跡保存・整備	文化財課	地権者	用地買収、遺跡周辺の再整備、史跡管理を実施する。
(3) 歴史資料館の充実	文化財課	市民	企画展、講座、講演会及び各種事業を実施する。 収蔵資料の分類及び整理を推進する。
(4) 伝統文化の継承	文化財課	市民	地域の祭事保存を推進する。
(5) 体験広場の充実	文化財課	市民	のぼり窯体験事業の活性化を図る。
(6) 情報提供	文化財課	市民及び市外住民 他団体	文化財資料、文化財マップを発行する。

## 2 施策のこれまでの経過・今後の見通し

事業名	これまでの経過 (前年度までの取組)	今後の見通し・計画
(1) 事前調査・発掘調査	16年度 遺跡地図作成 例年10件程度の発掘調査の実施	21年度 遺跡地図の改正 試掘調査の削減 *住宅の耐震化工事に伴う発掘調査件数の増加が予想される。
(2) 遺跡保存・整備	昭和49年度 春日市文化財保護条例施行	用地取得予定 21年度 岡本7-35-1、36 22年度 天神山1-117ほか3地点 (起債買上げ) 23年度 岡本7-45、7-5 (起債買上げ)

(3) 歴史資料館の充実	企画展 3 回 講演会 2 回 歴史散歩 2 回 親子体験教室 5 回	21 年度に従来の資料館事業に加えて職員による歴史講座 4 回を実施予定である。
(4) 伝統文化の継承	5 年度 春日の婿押しの記録作成 7 年度 春日の婿押し無形民俗国指定 18～20 年度 資料館企画展で各地区の伝統行事を紹介	21～23 年度 市内に残る伝統行事の調査及び記録作成を実施予定
(5) 体験広場の充実	15 年度 やきもの教室事業を開始 16 年度 ボランティア育成コースを設定 17 年度以降 ボランティアを活用した市民協同によるやきもの教室	学校、地区公民館等への出前事業の再開を目指すとともに、更なる活性化を目指す。
(6) 情報提供	19 年度 文化財活用基本計画策定 調査報告書の発行 マップ等の随時見直しによる改版 ホームページの随時更新	計画的な調査報告書の発行 マップ等配布物の見直しによる改版 ホームページ等の随時更新 他機関への情報提供

### 3 20 年度の施策の実施結果・業績指標

事業名	実施結果・業績指標
(1) 事前調査・発掘調査	遺跡地図の改正案作成 事前照会件数 863 件 試掘調査件数 73 件 発掘調査件数 7 件
(2) 遺跡保存・整備	公有化率（20 年度末現在） 国指定特別史跡水城跡 87.0% 国指定史跡須玖岡本遺跡 77.9% 国指定史跡日拝塚古墳 100% 国指定史跡須玖岡本遺跡整備事業（岡本 7 - 10：面積 400.39 m <sup>2</sup> ） 総費用額 27,378 千円 内訳 国庫補助金 21,902 千円 県補助金 1,200 千円 市負担金 4,276 千円
(3) 歴史資料館の充実	企画展 3 回（関連事業として講演会 2 回、体験教室 2 回を実施） 歴史散歩 2 回 親子体験教室 7 回

(4) 伝統文化の継承	小倉地区の企画展を開催し、伝統行事を紹介した。 「続・春日風土記」の刊行 500 部
(5) 体験広場の充実	一般参加のやきもの教室 12 回（参加者 307 人） 公民館出前事業 2 回 白水小学校クラブ活動への協力 9 回 ごみ減量推進課事業への協力 1 回
(6) 情報提供	報告書発行 3 冊 文化財ガイドマップの見直しによる改版 ホームページの見直し及び改善

#### 4 成果と評価

事前調査・発掘調査については、開発により消滅していく埋蔵文化財を調査し、新たな歴史資料を追加することができた。

遺跡保存・整備については、国指定史跡須玖岡本史跡整備事業の公有化率が 77.9%となった。歴史資料館の充実については、発掘調査で得た資料の企画展での公開や各種事業の実施により市民の知識や理解の向上に貢献した。

伝統文化の継承については、伝統行事の記録を作成し、事例を紹介することで市民の保存意識を高めることができた。

体験広場の充実については、春日市のぼり窯体験広場（ウトグチ瓦窯展示館）で事業を行うことで、春日市の文化財の保存及び整備に対する市民の理解及び認識を深めることに貢献することができた。

情報提供については、報告書等の発行を通して春日市内の文化財情報の提供ができた。また、わかりやすい配布物やホームページの作成により、市民の歴史学習に貢献することができた。

#### 5 今後の課題・取組の方向

事前調査・発掘調査については、

- ・遺跡地図の改正に伴い試掘調査区域を限定し費用の縮減を図る。
- ・発掘調査報告書の刊行が遅れているため、計画的に作成していく必要がある。

遺跡保存・整備については、須玖岡本遺跡用地取得に伴う国指定申請を実施する。  
岡本 7 - 5 地点ほか 5 件

歴史資料館の充実については、市民ニーズに対応した手作りの事業を考案し、文化財の啓蒙普及を推進する。

伝統文化の継承については、市内各地域に残る伝統行事を調査し、その継続意義の周知を図る必要がある。

体験広場の充実については、更にボランティア組織の育成を図り、教室事業等の運営においてボランティアの自主活動の比率を増やすことで、市民協働の開かれた文化財愛護活動を推進する必要がある。

情報提供については、

- ・計画的な報告書の発行により、調査の情報提供に努める。
- ・わかりやすく、内容の充実した配布資料やホームページの作成により歴史資料館の P R に努める。



施策の柱	歴史・文化・スポーツに親しむまちづくり
施策名	文化芸術活動の振興

## 1 施策の概要

事業名	所管課	対象 (誰を、何を)	意図 (どういう状態にする)
(1) 弥生の里音楽祭	文化振興課	市民及び市外住民	「音楽のまちづくり」を推し進めるとともに、自主的に地域で芸術文化活動を行う市民及び団体に発表の機会を提供する。
(2) 音楽の玉手箱	文化振興課	市民	プロの演奏家による上質な生の音楽を聴く機会を提供する。
(3) 芸術文化ワークショップ	文化振興課	市民及び市外住民	多彩な分野の芸術文化を体験する機会を提供することで、新たな創造活動への意欲をもたらすことを目指す。
(4) ふれあい文化サークル	文化振興課	市民及び市外住民	学習活動の推進を図る。

## 2 施策のこれまでの経過・今後の見通し

事業名	これまでの経過 (前年度までの取組)	今後の見通し・計画
(1) 弥生の里音楽祭	12年度 ふれあい文化センター開館10周年を機に開催 13年度以降 毎年度実施	市民参加型事業を中心に内容の拡充を図りつつ、継続して実施する。
(2) 音楽の玉手箱	12年度事業開始	新規派遣依頼の誘引とともに登録音楽家の拡充を図る。
(3) 芸術文化ワークショップ	18年度 事業開始。4講座実施 19年度 「芸術文化ワークショップ」の名称使用。3講座実施	体験の機会を提供する分野について入替え等を行いつつ、継続して実施する。
(4) ふれあい文化サークル	7年度開講	市民の学習ニーズに応じ、適宜講座内容の入替えを図り、学習機会の提供に努める。

### 3 20年度の施策の実施結果・業績指標

事業名	実施結果・業績指標
(1) 弥生の里音楽祭	主催事業として次の4事業を実施。他に共催事業として5事業を実施 楽器づくり教室 1日の講座を2回実施。参加者は合わせて58人 ピアノリレーマラソン 2日間実施 出場186組202人、入場1,476人 音楽の玉手箱ワークショップ 「中国楽器～二胡にふれてみよう！」 音楽の玉手箱プレミアムライブ 3回実施。入場188人
(2) 音楽の玉手箱	出前ミニコンサート 16回実施。観客数計862人 学校コンサート 6施設にて実施。観客数2,407人 小学校音楽体験教室 申込みなし プロモーション 12回実施。観客数1,005人
(3) 芸術文化ワークショップ	2講座実施 パントマイムに挑戦93人参加 編曲&アンサンブルワークショップ112人参加
(4) ふれあい文化サークル	西日本文化サークルへ事業委託を行い、123講座及び1日体験講座6講座を実施。講座利用者の託児サービスも併せて実施。受講者数1,585人。また、受講生の学習活動の発表の場として、作品展示会とステージ発表を実施

### 4 成果と評価

事業方針である「音楽のまちづくり」を目指し、音楽に重点を置いた事業を展開した。「弥生の里音楽祭」及び「音楽の玉手箱事業（音楽家派遣事業）」を中心として、内容を拡充しつつ継続実施することで、市民へ定着している。

文化を通じたまちづくり活動を自主的に展開していく意欲のある人材を発掘及び養成するため、20年度新規事業として「人財づくり講座」を開設し、実習等を通し、21年度の芸術文化ワークショップの企画及び運営の一翼を担ってもらう取組を行った。

### 5 今後の課題・取組の方向

音楽事業については市民への定着も進んできたが、リピーター率への依存が高いため、新規顧客の獲得につながるような内容の拡充に努めることが課題である。また、市民の企画及び運営面での参画を視野に入れた人材育成に取り組む必要がある。

施策の柱	歴史・文化・スポーツに親しむまちづくり
施策名	市民スポーツの振興

## 1 施策の概要

事業名	所管課	対象 (誰を、何を)	意図 (どういう状態にする)
(1) スポーツフェスタ	スポーツ課	市民	健康的なライフスタイル文化の創造を目指し、市民の健康づくり並びに体力の維持及び増進に寄与し、併せて地域相互間及び世代間の親睦を図る。
(2) スポーツ施設の整備	スポーツ課	市スポーツ施設	スポーツの振興を図り、健康で文化的な市民生活の向上に寄与する。
(3) 学校開放事業	スポーツ課	市内の小中学校	生涯学習の振興及び青少年の健全育成を図る。
(4) 社会体育関係団体の育成・支援	スポーツ課	体育協会、スポーツ少年団及びNPO	市内の社会体育関係団体の充実を図り、スポーツの振興を目指す。

## 2 施策のこれまでの経過・今後の見通し

事業名	これまでの経過 (前年度までの取組)	今後の見通し・計画
(1) スポーツフェスタ	19年度 スポーツフェスタ実施	21年度 スポーツフェスタ実施予定
(2) スポーツ施設の整備	19年度 春日市立北スポーツセンターNHKラジオパーク開設	21年度 温水プール指定管理者制度導入 新市民スポーツセンター建設計画の策定
(3) 学校開放事業	18年度 白水小学校自主管理校制度導入	自主管理校制度の拡大
(4) 社会体育関係団体の育成・支援	各種団体に対する補助金の交付	補助事業の見直し

### 3 20年度の施策の実施結果・業績指標

事業名	実施結果・業績指標
(1) スポーツフェスタ	実施事業 ソフトボール、卓球、ソフトテニス、ドッジボール、相撲、テニス、 綱引、ニュースポーツ、ビーチボールバレー、グランドゴルフ、 ゲートボール、バザー及び温水プール無料開放 総参加者数 2,779 人
(2) スポーツ施設の整備	50メートルプール解体 市スポーツ施設の修繕工事費支出 9,638 千円 ・西スポーツセンター加圧給水ポンプ取替工事 ・春日南小学校屋外照明盤改修工事ほか
(3) 学校開放事業	春日小学校自主管理校制度導入 学校開放事業利用者数 435,801 人
(4) 社会体育関係団体の育成・支援	補助金の交付（20年度総計 10,511 千円） < 補助金内訳 > ・春日市体育協会 5,343 千円 ・スポーツ少年団 2,000 千円 ・地区体育振興費補助 1,662 千円 ・全国大会出場等補助金 1,506 千円

### 4 成果と評価

各種事業の展開により、数多くの市民やスポーツ団体にスポーツを楽しむ機会を提供することができた。

### 5 今後の課題・取組の方向

市民スポーツセンターを始めとした市スポーツ施設の老朽化が目立つようになり、また、市民からも要望がでており、新市民スポーツセンター建設計画を通して、これに対応できるような施設を建設する必要がある。

学校開放事業については、現在は2校が自主管理校であるがその他の小中学校についても、自主管理校化を進める必要がある。